

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月25日

【事業年度】 第46期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社日本エム・ディ・エム

【英訳名】 Japan Medical Dynamic Marketing, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大川 正 男

【本店の所在の場所】 東京都新宿区市谷台町12番2号

【電話番号】 (03) 3341-6545 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼SCM本部長 澤 木 直 人

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区市谷台町12番2号

【電話番号】 (03) 3341-6545 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼SCM本部長 澤 木 直 人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (千円)	9,459,467	11,855,226	13,024,747	13,629,522	14,807,726
経常利益 (千円)	475,722	1,086,951	1,536,460	1,747,573	1,964,909
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失() (千円)	286,656	391,528	800,546	1,130,703	1,425,466
包括利益 (千円)	443,640	65,499	609,176	1,168,471	1,158,199
純資産額 (千円)	11,051,653	10,853,773	11,330,598	12,288,293	13,263,309
総資産額 (千円)	19,483,684	20,167,616	20,132,990	21,537,563	20,870,527
1株当たり純資産額 (円)	417.65	409.70	427.69	464.72	501.24
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額() (円)	10.83	14.80	30.25	42.78	53.99
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.7	53.8	56.2	57.0	63.4
自己資本利益率 (%)	2.6	3.6	7.2	9.6	11.2
株価収益率 (倍)	27.9	41.2	20.1	18.2	18.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	457,187	1,967,953	1,566,887	2,038,193	2,562,533
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,329,773	1,058,966	1,591,534	1,078,371	1,016,035
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,055,900	864,253	239,958	39,996	1,875,750
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,051,409	2,138,305	1,870,076	2,793,079	2,457,900
従業員数 (名)	319	317	336	350	377

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第42期、第43期、第44期、第45期及び第46期は潜在株式が存在しないため、また、第43期は1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3 第45期より1株当たり純資産額の算定上、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月		平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高	(千円)	6,673,778	8,151,885	8,733,089	9,063,313	9,545,525
経常利益	(千円)	204,340	580,657	1,019,961	1,129,157	1,055,946
当期純利益又は 当期純損失()	(千円)	114,210	719,590	573,705	730,721	711,442
資本金	(千円)	3,001,929	3,001,929	3,001,929	3,001,929	3,001,929
発行済株式総数	(株)	26,475,880	26,475,880	26,475,880	26,475,880	26,475,880
純資産額	(千円)	11,818,647	10,986,435	11,376,874	11,946,476	12,462,965
総資産額	(千円)	15,826,646	15,078,517	15,536,097	15,977,463	15,884,319
1株当たり純資産額	(円)	446.64	415.19	429.94	452.54	472.06
1株当たり配当額(内1株 当たり中間配当額)	(円) (円)	5 (-)	5 (-)	6 (-)	7 (-)	8 (-)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額()	(円)	4.32	27.19	21.68	27.65	26.95
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	74.7	72.9	73.2	74.8	78.5
自己資本利益率	(%)	1.0	6.5	5.1	6.3	5.8
株価収益率	(倍)	69.9	22.4	28.0	28.1	36.9
配当性向	(%)	115.7	-	27.7	25.3	29.7
従業員数	(名)	208	210	221	226	237

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第42期、第43期、第44期、第45期及び第46期は潜在株式が存在しないため、また、第43期は1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3 第45期より1株当たり純資産額の算定上、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2 【沿革】

年月	概要
昭和48年5月	医療関連商品の販売を目的として株式会社ホスピタルサービス（資本金250万円）を設立
昭和56年1月	株式会社日本エム・ディ・エムに社名変更
昭和56年7月	Ace Medical Company（米国）の日本総販売代理店として骨接合材料の販売開始
平成6年9月	Ortho Development Corporation（米国）を買収
平成8年1月	米国子会社 Ortho Development Corporation製造の人工股関節「ODCパイポーラシステム」販売開始
平成9年6月	津久井工場においてISO9002の認証取得
平成10年12月	株式を日本証券業協会に店頭売買有価証券として登録、株式公開
平成11年10月	高周波手術装置（EMF System）販売開始
平成12年2月	米国子会社Ortho Development Corporation製造の脊椎固定器具販売開始
平成12年3月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場
平成13年5月	株式を東京証券取引所市場第一部に指定替え
平成14年8月	津久井工場においてISO9001の認証取得
平成16年2月	Spine Next S.A.（現Zimmer Biomet社、仏）が製造する脊椎固定器具の日本国内における独占販売権を取得
平成16年7月	医療機器の品質マネージメント・システムISO13485の認証取得
平成17年11月	日本特殊陶業株式会社の人工骨補填材の販売開始
平成18年4月	日本メディカルマテリアル株式会社（現京セラ株式会社）と販売提携
平成19年6月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニーと日本市場における骨接合材料の独占販売契約を締結
平成20年7月	伊藤忠商事株式会社との間で資本・業務提携に関する契約を締結
平成21年2月	伊藤忠商事株式会社、株式会社グッドマン及びセンチュリーメディカル株式会社との包括業務提携に関する契約を締結
平成21年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニーと平成22年1月以降の日本市場における骨接合材料等商品の新たな販売提携契約を締結
平成21年8月	株式会社オーミックと販売提携契約を締結
平成21年11月	ジンマー株式会社（現ジンマー・バイオメット合同会社）との脊椎固定器具製品に関する新たな共同販売提携契約の締結
平成21年12月	日本メディカルマテリアル株式会社（現京セラ株式会社）との人工股関節製品の売買に関する取引基本契約を締結
平成22年12月	米国子会社Ortho Development Corporationが株主割当増資を実施
平成23年3月	ナカシマメディカル株式会社（現帝人ナカシマメディカル株式会社）と販売提携契約を締結
平成24年1月	カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社と販売提携契約を締結
平成24年3月	自社開発骨接合材料製品を日本国内で販売開始
平成24年3月	Ossur Hong Kong Limitedと販売提携契約を締結
平成24年6月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社メディカルカンパニーと日本市場における骨接合材料の販売契約を終了
平成26年11月	ジンマー株式会社（現ジンマー・バイオメット合同会社）との脊椎固定器具製品に関する共同販売提携契約を終了
平成27年7月	Materialise社と3D技術を用いた人工股関節手術器械に関する取引契約を締結
平成28年5月	伊藤忠商事株式会社との資本・業務提携契約を終了
平成28年5月	日本特殊陶業株式会社との間で資本及び業務提携に関する契約を締結
平成29年6月	China Pioneer Pharma Holdings Limited（中国先鋒医薬控股有限公司（注））との間で中華人民共和国における独占販売提携契約を締結
平成30年3月	京セラ株式会社との販売提携契約を終了

（注）中国先鋒医薬控股有限公司の社名は中国語簡体字を含んでいるため、日本語常用漢字で代用しております。

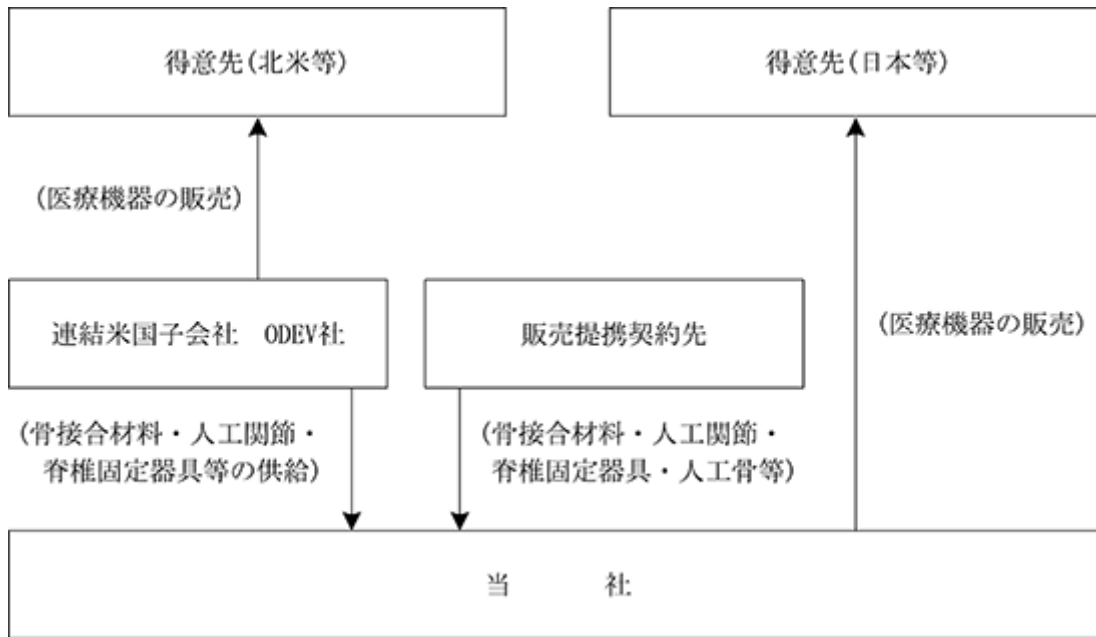
3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社及び米国子会社1社で構成され、整形外科分野を中心とした医療機器類の輸入、開発、製造、販売を主な事業活動内容としております。

当企業集団の売上は、整形外科分野の医療機器類の取り扱いが大半を占めております。具体的には、当社が、米国子会社ODEV社及び販売提携契約等に基づき国内外メーカーから、骨接合材料、人工関節や脊椎固定器具等製商品を仕入れ、日本国内において販売を行っております。

また、米国子会社ODEV社は、骨接合材料、人工関節や脊椎固定器具等の開発製造を行い、当社に対して製品供給を行う一方、独自に米国市場を中心として人工関節、脊椎固定器具等の販売を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有(被所有)割合(%)	関係内容
Ortho Development Corporation (注)2,3	米国ユタ州	8,532 千米ドル	米国 (医療機器の開発製造販売)	98.3	当社製品の開発、同社製品の購入等、債務保証、業務支援、役員の兼任4名、駐在2名

- (注) 1 主要な事業の内容の欄にはセグメントの名称を記載しております。
 2 上記子会社は、特定子会社であります。また、有価証券届出書又は有価証券報告書は提出していません。
 3 上記子会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等(内部取引相殺前金額)

売上高	8,354,978千円
経常利益	926,369千円
当期純利益	787,403千円
純資産額	3,251,939千円
総資産額	7,550,752千円

(2) その他の関係会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有(被所有)割合(%)	関係内容
日本特殊陶業株式会社	愛知県 名古屋市 瑞穂区	47,869 百万円	・スパークプラグ及び内燃機 関連関連品の製造、販売 ・ニューセラミック及びその 応用商品の製造、販売 他	(30.0)	資本業務提携、同社製品の購入、業務受託等、役員の派遣受入3名、出向受入3名

(注) 有価証券報告書の提出会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	237
米国	140
合計	377

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
237	37.5	11.3	7,053,901

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	237
合計	237

(注) 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使の関係は良好に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

国内における医療機器業界を取り巻く環境は、社会保障関連費の財源問題等により今後も償還価格は下落し、引き続き厳しい市場環境が継続すると想定しております。また、国は少子高齢化社会の到来による急速な人口構造の変化に伴う社会保障関連費の増加が避けられない状況下、単なる負担増と給付削減による現行制度の維持を目指すのではなく、世界最高の健康水準を維持すると同時に、保健医療分野における技術やシステムの革新を通じて、経済成長に寄与していくとの方向性を打ち出しており、当社に求められる役割も変化していくものと考えております。

一方、海外市場(北米・中国ほか)においては、高齢人口の増加に伴い整形外科領域において市場規模の継続拡大が期待され、其々の市場において製品・サービスを含め様々なニーズに真摯に対応していく事によりビジネス拡大が可能と考えております。

当社は、これら様々なニーズや課題に対応することにより、患者様のQOL向上に資する経営を行うべく、「最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて医療に貢献する」という経営理念のもと、平成31年3月期(第47期)から平成33年3月期(第49期)の3か年を実施期間とする中期経営計画「MODE2020」を策定しました。「MODE2020」は、中期経営方針として「オーガニック成長領域における収益力の強化と、戦略成長領域における基盤を確立すると共に、戦略実行体制の強化を図り、中長期的に利益の伴った持続的成長を実現する」を掲げ、日本市場で成長を維持し、北米市場では高成長を継続するとともに、中国市場において、将来に向けた販売基盤の確立に注力してまいります。

また、成長と効率化を両立させ収益性を維持する為に、付加価値の高い自社製品開発に加え、日本特殊陶業(株)との連携による高付加価値商品の導入、北米子会社における自社製造能力拡大による製造コストの削減、IT活用による業務改善、SCM強化による資産の効率的な運用等を実施する事により、様々な課題に全社グループ一丸となり取り組んでまいります。

「中期重点施策」

製品開発力・製造力の強化

製品開発力の強化について、適用症例拡大を目的とした製品ラインアップの拡大に加え、他社製品との差別化を図るため、米国子会社Ortho Development Corporation(以下「ODEV社」)との日米共同開発による付加価値の高い製品の開発に注力してまいります。また、新たな取組として日本特殊陶業(株)が保有・新規開発する様々な表面加工技術などを活かした高付加価値商品や、より市場ニーズを反映した商品の導入によりビジネス拡大を目指してまいります。

また、ODEV社の製造施設・設備を拡大・強化する事により製造力の強化に注力してまいります。

海外ビジネスの拡大

北米市場においては、リージョナルセールスマネージャー増員などによる販売体制の強化に加え、人工関節分野における新製品の導入、大腿骨頸部転子部骨折治療分野へ新規参入することによりビジネスの拡大を目指します。

中国市場に関しては、人工膝関節分野に注力する方針です。平成30年度中にODEV社の上海事務所を設立する事により、販売提携先からの市場情報の収集や、ODEV社製品の拡販に必要な様々なマーケティング支援を開始するなど、中長期での成長を目的とした販売基盤の確立に注力してまいります。更に、新規市場としてオーストラリアでの販売も検討を進め、本中期経営計画期間中での販売開始を目指してまいります。

日本市場における注力販売製品分野のシェア拡大

注力販売製品分野の国内シェア拡大を図ってまいります。

MODE2017に引き続き、注力販売製品分野を大腿骨頸部転子部骨折治療分野、脊椎固定器具分野、人工股関節分野と定めました。特に大腿骨頸部転子部骨折治療分野では平成29年4月より営業本部に特販部を新設し、大腿骨頸部転子部骨折治療材料の拡販に注力する体制を構築しており、本中期経営計画においても同製品分野でのシェア拡大に努めてまいります。注力販売製品分野において、付加価値の高い新製品導入に加え、日本特殊陶業(株)との業務提携で開発される新商品を順次導入する事によるシナジー効果を追求することにより、更なるシェア拡大を目指してまいります。また、注力販売製品分野における自社製品の付加価値を高めるために、手術支援システムなど周辺機器の他社からの調達にも注力いたします。

更なる効率化とSCM強化

国内の物流拠点は平成27年度上半期に耐震性能に優れた新物流センターへ移転し、災害発生を踏まえた物流体制を構築しましたが、国内事業規模の拡大に伴う倉庫スペースの拡充に加え、物流関連業務効率化や、労働環境改善のためのレイアウト変更などに努めてまいりました。また、物流関連業務の効率化を更に進める為に、平成30年4月1日付けで組織改編を行い、新たにSCM本部を設け需給管理機能を一本化することにより、医療工具の出荷効率やインプラント在庫の回転率を向上させる等、効率的な物流オペレーションを追求してまいります。

また、業務改善については、組織横断的な業務改善活動にも取り組み、様々な業務の効率化に継続的に取り組んでまいります。

文中において将来について記載した事項は、当連結会計年度末日現在において当社が判断したものであります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関連する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、主として以下のようなものがあります。

なお、当社グループの事業等はこれら以外にも様々なリスクを伴っており、ここに記載されたものがリスクのすべてではありません。当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、可能な限り発生の防止に努め、発生した場合の的確な対応に努めていく方針です。また、文中において将来について記載した事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

(仕入に関するリスク)

当社グループが販売する商品等は、ODEV社製品の他、販売提携契約等に基づき他社から仕入れております。

ODEV社を除く他社との契約解消や仕入先の製造工場の問題などにより仕入が遅延または停止した場合、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

(販売に関するリスク)

予期していなかった不具合の発現、同領域の他社製品との競合等は、売上を減少させる要因となり損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

(法規制、行政動向に関するリスク)

日本国内の医療機器は、薬事行政の下、様々な規制を受けております。また、2年毎に実施されている診療報酬の改定をはじめとして、医療制度や健康保険に関する行政施策の動向は損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。また、海外においても同様に、医療機器として様々な規制を受けており、医療制度等に関連した行政施策の動向は、当社グループの損益及び財政状況に影響を及ぼすことがあります。

この他、税制関連の法令改正により法人税等実効税率が引下げられた場合には、繰延税金資産の金額が変動し、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(研究開発に関するリスク)

新製品の研究開発には時間がかかりますが、その間に期待された有用性が確認できず研究開発を中止する可能性があります。また、医療機器は各国の法規制を受ける為、各々の国で承認を取得しなければ販売できませんが、承認取得の可否及び時期についても正確な予測は困難です。

(知的財産に関するリスク)

当社グループの取扱う商品及び製品等が他者の特許等知的財産権に抵触する場合、販売の断念や係争の可能性があります。一方、他者が当社グループの特許等知的財産権を侵害すると考えられる場合は、その保護のため訴訟を提起する場合があります、それらの動向は損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

(訴訟に関するリスク)

公正取引に関する事案の他、事業活動に関連して、特許、販売に関する契約、医薬品の副作用、製造物責任、労務問題などに関し、訴訟を提起される可能性があります、その動向によっては損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

(為替変動に関するリスク)

当社はODEV社からドル建てで輸入仕入していること、また、連結財務諸表においてODEV社の収益や資産を円換算していることから、為替相場の変動は当社グループの損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

(その他のリスク)

上記のほか、損益及び財政状態に影響を及ぼす可能性があるリスクとしては、地震等大規模な災害の発生に伴う事業活動の停滞、コンピュータウィルスなどによるコンピュータシステムの休止、金利の変動、取引先の経営悪化や国情などに起因する売上債権等の貸倒れなどが考えられます。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

当企業集団の当連結会計年度における売上高は14,807百万円（前連結会計年度比1,178百万円増、同8.6%増）、営業利益2,045百万円（前連結会計年度比135百万円増、同7.1%増）、経常利益1,964百万円（前連結会計年度比217百万円増、同12.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,425百万円（前連結会計年度比294百万円増、同26.1%増）となりました。

主な要因は次のとおりであります。

売上高は、日本国内において平成29年1月と4月に償還価格の引下げが行われましたが、米国子会社Ortho Development Corporation（以下「ODEV社」）製製品の売上が堅調に推移したことから、前連結会計年度比5.3%増の9,545百万円と伸張しました。米国においても人工関節製品の売上が堅調に推移し、外部顧客への売上高はUSドルでは前連結会計年度比13.5%増、また円安の影響を受け円換算後は前連結会計年度比15.2%増の5,262百万円となりました。

人工関節分野は、日本において「Alpine セメントッドヒップシステム」等の売上が堅調に推移したこと、米国において人工股関節製品「Legend Acetabular Cup」や人工膝関節製品の売上が堅調に推移したことにより、日本国内及び米国の売上高合計は前連結会計年度比8.1%増（日本国内0.2%減、米国16.4%増）の9,664百万円と伸張しました。

骨接合材料分野は、「ARISTO ネイルシステム」や「MDMプリマヒップスクリーシステム」の売上が順調に推移し、日本国内の売上高は前連結会計年度比7.8%増の3,182百万円と伸張しました。

脊椎固定器具分野は、「IBIS スパイナルシステム」の売上が堅調に推移し、日本国内及び米国の売上高合計が前連結会計年度比7.8%増（日本国内11.0%増、米国36.0%減）の1,670百万円と伸張しました。

売上原価率は、円安の影響や償還価格の引下げもありましたが、引き続き製造原価の低減に努めたことや自社製品売上高比率が88.6%（前連結会計年度は87.5%）に上昇したことにより、28.1%（前連結会計年度は28.8%）となりました。

販売費及び一般管理費合計は、給料及び手当、支払手数料の増加等により、前連結会計年度比10.2%増の8,596百万円となり、売上高販管費率は58.1%（前連結会計年度は57.2%）となりました。

営業利益は、売上高の増加、売上原価率の改善により、2,045百万円（前連結会計年度比7.1%増）となりました。

経常利益は、営業外収益として為替差益49百万円など65百万円を計上し、営業外費用として、支払利息124百万円など146百万円を計上した結果、1,964百万円（前連結会計年度比12.4%増）となりました。

特別損益は、医療工具などの固定資産除却損45百万円及び遊休資産の減損損失186百万円を特別損失として計上しました。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、2017年12月22日付米国連邦法人税の税率引下げを受け、繰延税金資産・負債の再評価等を行った結果、1,425百万円（前連結会計年度比26.1%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日 本・・・ 売上高は、ODEV社製骨接合材料「ARISTO ネイルシステム」やODEV社製脊椎固定器具「IBIS スパイナルシステム」等の自社製品の売上及び人工骨の売上が堅調に推移しました。自社製品売上高比率の上昇等により売上原価率が38.4%（前連結会計年度は39.1%）に改善した一方で、給料及び手当、研究開発費等の増加により販売費及び一般管理費が増加したことから、営業利益は前連結会計年度を下回りました。

その結果、当セグメントの売上高は9,545百万円（前連結会計年度比5.3%増）、営業利益は959百万円（前連結会計年度比9.6%減）となりました。

米 国・・・ 売上高は、既存顧客への販売の拡大及び新規顧客の増加により人工関節製品の売上高が伸張しました。その結果、内部売上高を含んだ当セグメントの売上高は8,354百万円（前連結会計年度比20.3%増）、営業利益は1,002百万円（前連結会計年度比103.0%増）となりました。

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ667百万円減少し、20,870百万円となりました。主な減少は、現金及び預金335百万円、原材料及び貯蔵品282百万円、有形固定資産369百万円であり、主な増加は、受取手形及び売掛金442百万円であります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ1,642百万円減少し、7,607百万円となりました。主な減少は、短期借入金852百万円、長期借入金693百万円であります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ975百万円増加し、13,263百万円となりました。主な増加は、利益剰余金1,240百万円であります。

その結果、当連結会計期間末の自己資本比率は63.4%（前連結会計年度末は57.0%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ335百万円減少し、2,457百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは2,562百万円の収入（前連結会計年度は2,038百万円の収入）となりました。収入の主な内訳は税金等調整前当期純利益1,732百万円、減価償却費1,014百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1,016百万円の支出（前連結会計年度は1,078百万円の支出）となりました。支出の主な内訳は有形固定資産（専用医療工具等）の取得による支出1,001百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは1,875百万円の支出（前連結会計年度は39百万円の支出）となりました。支出の主な内訳は長期借入金の返済による支出849百万円、短期借入金の純減少額498百万円であります。

生産、受注及び販売の状況

(イ) 生産実績

前連結会計年度及び当連結会計年度における生産実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称及び品目		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
		金額 (千円)	金額 (千円)
医療機器類	日本	99,814	91,965
	人工関節	20,946	18,690
	骨接合材料	63,681	54,556
	その他	15,186	18,717
	米国	5,379,208	4,236,165
	人工関節	3,774,302	2,965,528
	骨接合材料	738,069	756,953
	脊椎固定器具	808,895	475,657
	その他	57,941	38,026
合計		5,479,022	4,328,130

(注) 上記金額は製造原価により、製品の再加工等が含まれております。また、消費税等は含まれておりません。

(ロ) 受注実績

当企業集団では、見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(ハ) 販売実績

前連結会計年度及び当連結会計年度における販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称及び品目		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
		金額 (千円)	金額 (千円)
医療機器類	日本	9,063,313	9,545,525
	人工関節	4,479,808	4,469,522
	骨接合材料	2,952,226	3,182,977
	脊椎固定器具	1,445,316	1,603,959
	人工骨	114,778	198,570
	その他	71,183	90,494
	米国	4,566,209	5,262,201
	人工関節	4,461,433	5,195,196
	脊椎固定器具	104,775	67,004
合計		13,629,522	14,807,726

(注)1 セグメント間の取引については相殺消去しております。また、上記金額に、消費税等は含まれておりません。

2 前連結会計年度において、「日本」の「その他」に含めていた「リゾルブ ハロー システム(頸椎牽引器具)」は、当連結会計年度より「脊椎固定器具」に含めて表示しています。なお前年度比は前期実績を組替えた数値と比較しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

当連結会計年度の財政状態及び経営成績及びキャッシュ・フローの分析は、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末日現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当企業集団の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。重要な会計方針及び見積りについては、「第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」をご参照ください。

当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の経営成績の分析については、「第2 [事業の状況] 1 [経営方針、経営環境及び対処すべき課題等]」をご参照ください。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 [事業の状況] 2 [事業等のリスク]」をご参照ください。

当連結会計年度の財政状態及びキャッシュ・フローの状況の分析

財政状態については、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。また、キャッシュ・フローの状況の分析については、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(3) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針については、「第2 [事業の状況] 1 [経営方針、経営環境及び対処すべき課題等]」をご参照ください。

4 【経営上の重要な契約等】

(販売権契約等)

契約会社	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約内容
提出会社	日本特殊陶業株式会社	日本	人工骨	日本における販売権
	株式会社オーミック	日本	骨接合材料	日本における販売権
	帝人ナカシマメディカル株式会社	日本	骨接合材料	日本における販売権
	カールストルツ・エンドスコーピー・ジャパン株式会社	日本	関節鏡システム・内視鏡システム	日本における販売権
	Ossur Hong Kong Limited	中国(香港)	頸椎牽引装具	日本における販売権
	Materialise	ベルギー	手術器械	日本における販売権
Ortho Development Corporation	China Pioneer Pharma Holdings Limited (中国先鋒医薬控股有限公司)(注)2	中国	人工関節	中国における販売権

(注)1 京セラ株式会社との契約は、平成30年3月31日を以って終了いたしました。

2 中国先鋒医薬控股有限公司の社名は中国語簡体字を含んでいるため、日本語常用漢字で代用しております。

(業務提携契約等)

契約会社	相手先の名称	相手先の所在地	契約内容
提出会社	日本特殊陶業株式会社	日本	「資本及び業務提携」 中長期的な観点から、両社の経営資源を有効に活用することにより、より一層の事業の拡大、業務の効率化を図り、医療機器分野における持続的成長の実現及び企業価値を高めることを目的としています。

5 【研究開発活動】

当企業集団における研究開発活動は、「日本」では薬事・開発本部、「米国」では米国子会社Ortho Development Corporation(以下ODEV社)の開発部門において行われております。

「日本」

薬事・開発本部では、整形外科分野における工具の改良・新機能の開発等に取り組んでおります。

「米国」

米国子会社ODEV社の開発部門では、骨接合材料、人工関節、脊椎固定器具など整形外科分野の製品開発に取り組んでおります。

なお、当連結会計年度における当企業集団全体の研究開発に要した費用は、594,881千円(「日本」235,744千円、「米国」359,136千円)であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施いたしました設備投資の総額は995百万円で、その主なものは医療工具類の取得831百万円であります。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 日本

当連結会計年度の設備投資額は、医療工具類の取得534百万円を中心に総額585百万円であります。なお、重要な設備等の除却又は売却はありません。

(2) 米国

当連結会計年度の設備投資額は、医療工具類の取得297百万円を中心に総額409百万円であります。なお、重要な設備等の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成30年3月31日現在における、当社の各事業所並びに連結子会社の設備、投下資本並びに従業員の配置状況は次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:千円)					従業員数(名)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	工具、器具及び備品	合計	
本社	東京都新宿区	日本	管理設備 営業設備 開発設備	310,816	-	1,915,919 (518.12)	2,106,962	4,333,698	112
北関東営業所									
埼玉営業所									
東京第一営業所									
東京第二営業所									
東京第三営業所									
横浜営業所									
札幌営業所	北海道札幌市	日本	営業設備	322	-	-	19	342	9
仙台営業所	宮城県仙台市	日本	営業設備	361	-	-	19	381	7
東海営業所	愛知県名古屋市	日本	営業設備	777	-	-	19	797	11
中部営業所									
京都営業所	大阪府吹田市	日本	営業設備	3,872	-	-	27	3,899	24
大阪営業所									
神戸営業所									
中国第一営業所	広島県広島市	日本	営業設備	202	-	-	12	214	13
中国第二営業所									
四国営業所	香川県高松市	日本	営業設備	721	-	-	26	748	8
福岡営業所	福岡県福岡市	日本	営業設備	603	-	-	263	867	19
南九州営業所									
東京商品センター	東京都大田区	日本	在庫管理設備	49,456	2,207	-	13,511	65,174	34
その他施設(注)2	神奈川県相模原市	日本	倉庫	50,625	649	45,000 (1,551.31)	112	96,387	-
合計	-	-	-	417,760	2,857	1,960,919	2,120,975	4,502,512	237

(注)1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 その他施設につきましては、減損損失計上後の帳簿価額を記載しております。なお、減損損失の内容につきましては、「第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] [連結損益計算書関係] 4 減損損失」に記載のとおりであります。

- (2) 国内子会社
該当事項はありません。

- (3) 在外子会社

平成30年3月31日現在

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(単位:千円)						従業員数(名)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	工具、器具及び備品	建設仮勘定	合計	
Ortho Development Corporation	米国ユタ州	米国	生産開発及び販売設備	252,277	203,351	26,673 (9,752.78)	1,497,588	15,773	1,995,664	140

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,728,000
計	37,728,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,475,880	26,475,880	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 であります。
計	26,475,880	26,475,880		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年7月18日 (注)	7,942	26,475	1,175,529	3,001,929	1,175,529	2,587,029

(注) 第三者割当 発行価格296円 資本組入額148円
割当先 伊藤忠商事株式会社

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	23	29	28	61	6	5,329	5,476	-
所有株式数(単元)	-	62,907	3,068	81,345	13,723	524	102,860	264,427	33,180
所有株式数の割合(%)	-	23.79	1.16	30.76	5.19	0.20	38.90	100.00	-

(注) 「個人その他」及び「単元未満株式の状況」には、自己株式14,891株がそれぞれ148単元及び91株含まれております。なお、自己株式については、株主名簿上の株式数と実質的に所有している株式数は一致しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本特殊陶業株式会社	愛知県名古屋市長区瑞穂区高辻町14-18	7,942	30.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,922	11.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	1,550	5.85
渡邊 崇史	三重県四日市市	1,444	5.46
渡辺 康夫	東京都世田谷区	1,012	3.82
島崎 一宏	東京都練馬区	893	3.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	472	1.78
日下部 博	東京都港区	390	1.47
渡邊 藍子	東京都大田区	309	1.17
五味 大輔	長野県松本市	300	1.13
計		17,239	65.14

(注) 1 所有株式数は、千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

2 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,800	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,427,900	264,279	同上
単元未満株式	普通株式 33,180	-	同上
発行済株式総数	26,475,880	-	-
総株主の議決権	-	264,279	-

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式が91株含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社日本エム・ディ・エム	東京都新宿区市谷台町 12-2	14,800	-	14,800	0.05
計	-	14,800	-	14,800	0.05

(注) 役員向け株式交付信託が保有している当社株式 59,600株は、上記の自己保有株式には含めておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

1. 取締役に対する業績連動型株式報酬制度の概要

当社取締役（社外取締役を除きます。以下も同様です。）に対し、新たに中長期の業績に連動する報酬として、「業績連動型株式報酬制度」を導入することを平成28年6月23日開催の第44回定時株主総会において、決議いたしました。

本制度は、当社の業績と取締役の報酬との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットを享受するのみならず株価下落リスクを株主と共有することで、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上への貢献意識を高めることを目的としております。本制度導入にあたり、当社は、取締役を受益者とする金銭を拠出する信託（以下「本信託」）を設定し、当該信託が当社株式を取得し、株式交付規程に基づき、各取締役に対し、信託期間中の定時株主総会開催日（ただし、任期途中で退任する制度対象者には退任日）の役位と、直前に終了する事業年度における業績達成度に応じて算定される数のポイントを付与します。また、本制度の対象となる期間は、平成29年3月末で終了する事業年度から平成31年3月末で終了する事業年度までの3年間となります。

- ・名称：役員向け株式交付信託
- ・委託者：当社
- ・受託者：三井住友信託銀行株式会社
- ・受益者：取締役のうち株式交付規程に定める受益者要件を満たす者
- ・信託管理人：当社と利害関係のない第三者を選定
- ・信託の種類：金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
- ・信託契約の締結日：平成28年8月
- ・金銭信託日：平成28年8月
- ・信託期間：平成28年8月から平成31年8月まで（予定）

2. 取締役に取得させる予定の株式の総数

上限 80,000株

3. 本制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役のうち株式交付規程に定める受益者要件を満たす者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	184	188
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	14,891	-	14,891	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主還元（配当）について安定配当を基本方針とし、業績や成長分野への投資とのバランス等を総合的に勘案し、柔軟に利益還元を行っていく方針であります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針とし、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記の利益配分に関する基本方針に基づき、1株当たり8円といたしました。

内部留保資金につきましては、医療機器業界を取り巻く厳しい環境の中、高度で専門的な医療現場のニーズに対応できる新製品の開発、国際的マーケティング力の向上に重点的に投資してまいります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年6月21日 定時株主総会	211,687	8.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	395	698	759	820	1,133
最低(円)	220	258	483	744	690

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	1,133	990	935	950	1,072	1,026
最低(円)	1,014	841	860	895	898	905

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

5 【役員状況】

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率8.3%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(千株)
代表取締役社長		大川 正男	昭和31年9月8日生	昭和57年10月 監査法人中央会計事務所入所 平成13年8月 当社取締役管理本部長兼財務部長 平成13年9月 Ortho Development Corporation 取締役 平成14年10月 当社取締役海外担当(米国駐在) 平成15年3月 Ortho Development Corporation 代表取締役社長 平成15年8月 当社常務取締役海外担当 平成17年8月 当社常務取締役管理部門・海外担当兼財務部長 平成19年6月 当社取締役管理本部長兼海外担当 平成20年6月 当社取締役管理本部・海外・経営企画担当 平成21年8月 当社代表取締役社長 平成21年12月 Ortho Development Corporation 取締役(現任) 平成28年5月 当社代表取締役社長兼経営企画・管理本部担当兼事業推進本部担当 平成28年6月 当社代表取締役社長(現任)	(注)4	38
取締役	営業本部長	瀬下 克彦	昭和38年7月26日生	昭和63年12月 当社入社 平成13年3月 当社営業本部営業部長兼東京営業所長 平成13年7月 当社営業本部第一営業部統括部長 平成15年7月 当社営業本部営業戦略室長 平成19年6月 当社営業本部長 平成19年8月 当社取締役営業本部長兼販売推進部長 平成20年6月 当社取締役営業本部長(現任)	(注)4	28
取締役	マーケティング本部長兼トラウマ製品部長兼スパイン製品部長	近藤 浩一	昭和42年4月7日生	平成元年1月 当社入社 平成15年7月 当社営業本部営業戦略室横浜営業所長(部長) 平成17年8月 当社マーケティング部部长 平成19年8月 当社取締役事業推進本部長兼企画開発部長 平成20年6月 当社取締役事業推進本部長兼マーケティング部長 平成22年8月 当社取締役東日本営業部長・スパインチーム担当 平成27年4月 当社取締役マーケティンググループ長兼スパイン製品部長 平成27年5月 Ortho Development Corporation 取締役(現任) 平成29年4月 当社取締役マーケティング本部長兼トラウマ製品部長兼スパイン製品部長(現任)	(注)4	12
取締役	経営企画担当兼経営企画部長	弘中 俊行	昭和37年11月17日生	昭和61年4月 伊藤忠商事株式会社入社 平成13年8月 デル株式会社ビジネスセールス本部本部長 平成15年8月 同社エンタープライズ営業本部本部長 平成18年4月 米Dell Inc.コーポレートディレクター 平成18年12月 レノボ・ジャパン株式会社常務執行役員 平成21年8月 当社取締役社長付営業担当 平成22年8月 当社取締役営業本部・ODEV担当 Ortho Development Corporation 取締役 平成23年4月 伊藤忠商事株式会社ライフケア事業第一課長 平成23年8月 当社取締役退任 Ortho Development Corporation 取締役退任 平成25年4月 当社経営企画部長 Ortho Development Corporation 取締役(現任) 平成25年6月 当社取締役営業管掌兼経営企画担当兼経営企画部長 平成26年4月 当社取締役営業管掌・経営企画・管理本部担当兼経営企画部長 平成28年5月 当社取締役辞任 当社経営企画部長 平成28年6月 当社取締役経営企画担当兼経営企画部長(現任)	(注)4	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(千株)
取締役		奥山 雅彦	昭和32年2月24日生	昭和56年4月 平成18年2月 平成21年7月 平成23年7月 平成25年4月 平成26年4月 平成27年6月 平成28年6月 平成29年4月 平成30年4月	日本特殊陶業株式会社入社 同社総合研究所第2研究部長 同社技術開発本部開発センター長兼FR研究部長 同社技術開発本部理事 同社執行役員 同社常務執行役員 同社取締役常務執行役員技術開発本部長 当社取締役(現任) 日本特殊陶業株式会社取締役常務執行役員メディカル事業部担当 同社顧問 技監 東京支社長(現任)	(注)4	2
取締役	薬事・開発本部長	中垣 紳司	昭和35年10月18日生	昭和58年4月 昭和63年6月 平成14年5月 平成24年2月 平成24年4月 平成27年4月 平成28年4月 平成30年4月 平成30年6月 平成30年6月	日本特殊陶業株式会社入社 米国特殊陶業出向 米国テクノロジー出向 日本特殊陶業株式会社技術開発本部開発企画部部長 同社新規事業推進本部開発企画部部長 同社燃料電池事業推進本部T-SOFC部部長 同社燃料電池事業部事業部長 同社メディカル事業部参事(現任) 当社取締役薬事・開発本部長(現任) Ortho Development Corporation 取締役(現任)	(注)4	-
取締役	管理本部長兼SCM本部長兼SCM部長	澤木 直人	昭和38年1月16日生	昭和56年4月 平成12年9月 平成16年10月 平成21年2月 平成23年3月 平成27年4月 平成28年6月 平成29年6月 平成30年4月	日本特殊陶業株式会社入社 米国センサー(現米国特殊陶業)出向 日本特殊陶業株式会社センサー事業部企画管理 同社自動車関連事業本部企画部マネジメント開発室長 同社自動車関連事業本部SCM部企画管理課長 同社新規事業推進本部開発企画部副参事 当社取締役管理本部長 当社取締役管理本部長兼業務部担当 当社取締役管理本部長兼SCM本部長兼SCM部長(現任)	(注)4	-
社外取締役		石川 浩司	昭和43年6月8日生	平成11年4月 平成25年6月 平成25年12月	大原法律事務所入所 弁護士登録(現任) 当社社外取締役(現任) 大和ハウスリート投資法人監督役員(現任)	(注)4	-
社外取締役		佐分 紀夫	昭和24年6月2日生	昭和57年10月 昭和61年3月 平成5年9月 平成11年1月 平成14年10月 平成16年6月 平成17年6月 平成20年10月 平成22年5月 平成26年4月 平成27年6月	監査法人中央会計事務所入所 公認会計士登録 中央監査法人社員(パートナー) テンプスタッフ株式会社入社 株式会社イー・スタッフィング監査役 テンプスタッフ株式会社取締役サポート本部長兼財務部長 同社常務取締役 テンプホールディングス株式会社常務取締役グループ経営企画本部長 Kelly Services, Inc. 取締役 テンプホールディングス株式会社常務取締役グループ経営企画本部長兼グループ財務部長 当社社外取締役(現任)	(注)4	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		沼田 逸郎	昭和35年5月18日生	昭和59年3月 平成13年7月 平成14年10月 平成15年8月 平成17年8月 平成19年6月 平成21年8月 平成22年8月 平成24年11月 平成25年4月 平成29年6月	当社入社 当社営業本部営業企画部長兼商品管理部長 当社営業本部マーケティング戦略室長兼商品管理部長 当社取締役営業本部長 Ortho Development Corporation 取締役 当社取締役商品管理・マーケティング担当 当社代表取締役社長兼営業本部担当 当社取締役事業推進本部担当 当社取締役事業推進本部長兼マーケティング部長 当社取締役事業推進本部長 当社取締役トラウマ事業推進・業務部担当 当社常勤監査役(現任)	(注)5	51
社外監査役		大石 洋司	昭和22年9月14日生	昭和47年4月 昭和49年9月 平成6年3月 平成15年11月 平成19年1月 平成19年8月 平成29年7月	株式会社国民相互銀行入行 財団法人仁和会総合病院入職 財団法人東京都医療保健協会練馬総合病院入職事務長 社会福祉法人恩賜財団済生会神奈川県病院入職 社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院入職 中央情報部部長 当社社外監査役(現任) 特定医療法人三省会顧問(現任)	(注)5	8
社外監査役		山田美代子	昭和36年4月29日生	昭和62年10月 平成3年3月 平成9年1月 平成10年6月 平成15年10月 平成22年6月 平成23年4月 平成27年6月	監査法人中央会計事務所入所 公認会計士登録 株式会社ナイキ・ジャパン入社 山田公認会計士事務所開業(現任) 有限会社メリッサ代表取締役(現任) ブラコー株式会社監査役 独立行政法人国立女性教育会館監事 当社社外監査役(現任)	(注)5	1
計							146

- (注) 1 所有株式数は、千株未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 2 取締役石川浩司氏及び佐分紀夫氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 3 監査役大石洋司氏及び山田美代子氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 4 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、経営組織の活性化と迅速な意思決定を行うことにより、経営の効率性を高め、激変する経営環境に対応し、経営理念である「最先端の優れた医療機器の開発と販売を通して、医療に貢献する」の実現性を追求しております。また、全てのステークホルダーから「価値ある企業」と認知されるためには、社会的責任を果たし経営の透明性の向上に努めることが重要であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実、内部統制の強化、コンプライアンスの充実を図っております。

また、役職員行動規範、コンプライアンス委員会規程の整備、内部通報制度による社内外の窓口相談できる体制を構築し、企業倫理・法令遵守の充実を図り、「独占禁止法」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、業界の自主規制である医療機器業公正競争規約などの遵守徹底を図っています。

企業統治の体制

a. 企業統治の概要とその体制を採用する理由

現行法制下、当社の規模・成長のステージ等鑑み監査役会設置会社が最も有効であると考え、以下の「コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方」を実現するため、現状のコーポレート・ガバナンス体制としています。

・コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

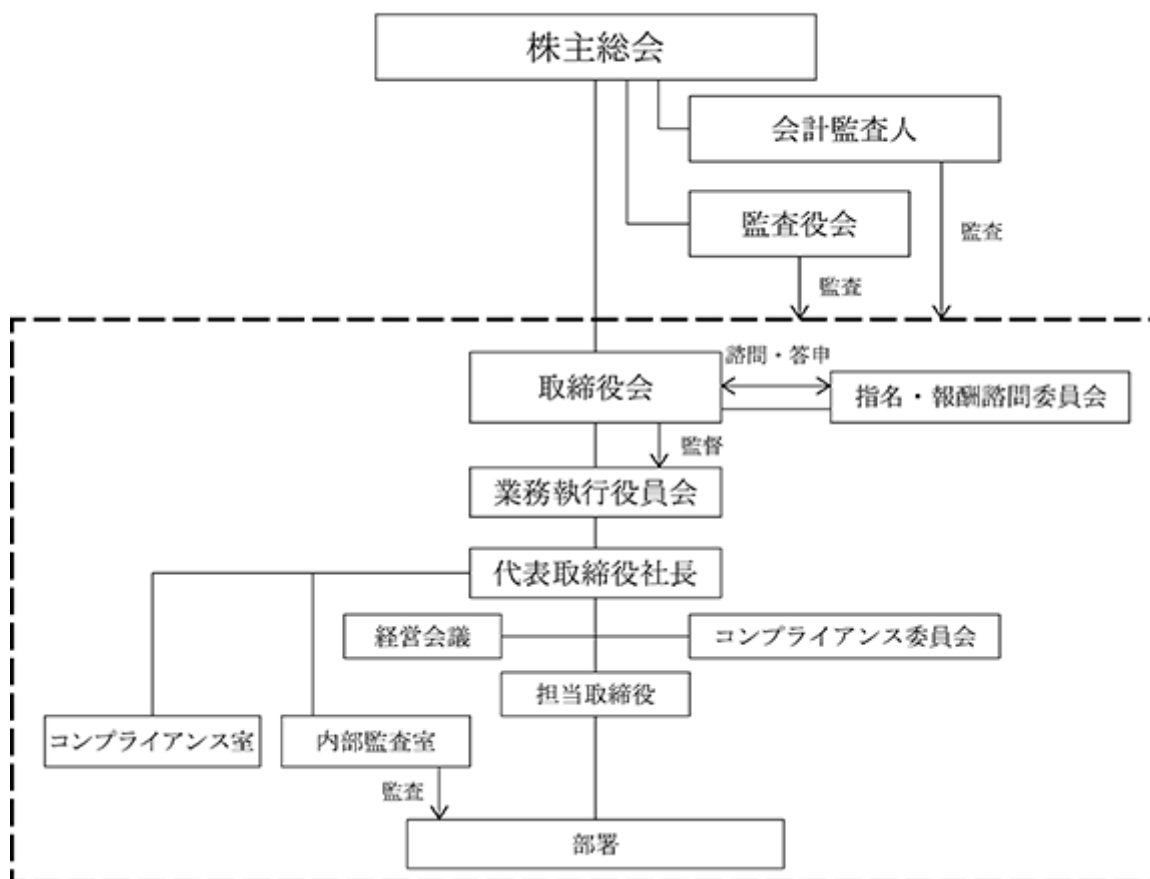
当社は、常に最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を図る観点から、意思決定の透明性・公正性を確保するとともに、保有する経営資源を十分有効に活用し、迅速・果敢な意思決定により経営の活力を増大させることがコーポレート・ガバナンスの要諦であると考え、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

- () 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- () 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- () 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- () 独立社外取締役が中心的な役割を担う仕組みを構築し、取締役会による独立した客観的な立場から業務執行の実効性の高い監督を行う。
- () 株主との間で合理的な範囲で建設的な対話を行う。

また、役職員行動規範、コンプライアンス委員会規程の整備及び内部通報制度による社内外の窓口相談できる体制を構築し、企業倫理・法令順守の充実を図り、「独占禁止法」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」及び業界の自主規制である医療機器業公正競争規約などの遵守徹底を図っています。

- ・取締役会は平成30年6月25日現在取締役9名で構成し、法令、定款及び「取締役会規程」その他の社内規程等に従い、重要事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督しております。
取締役会は、経営上の重要な意思決定を行うため原則月1回開催するほか必要に応じて随時開催しております。また、業務執行に関しては、業務執行役員会、代表取締役社長の諮問機関である経営会議を開催することで、責任体制の明確化と業務の迅速化を図っております。
- ・取締役は、取締役会の決定した役割に基づき、法令、定款、取締役会決議及び社内規程に従い、担当業務を執行しております。
- ・監査役会は平成30年6月25日現在監査役3名で構成し、常勤監査役1名、非常勤監査役2名となっており、「監査役会規則」「監査役監査基準」に則り、取締役の職務執行の適正性を監査しております。また、社長直轄である内部監査室を設置し、全国の拠点及び関係会社を監査して代表取締役社長、取締役会及び監査役会に提出しております。

【コーポレートガバナンス体制図】



b. 内部統制システムの整備の状況

「内部統制の基本方針」につきましては、以下のとおりです。

(当社及び子会社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制)

- ・当社グループの役員行動規範、コンプライアンス委員会規程に従い法令等違反行為を未然に防止する。
- ・業務執行に関し、必要に応じ弁護士その他専門家に適法性の確認をとることができる体制を整える。

(当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制)

- ・当社の取締役の職務の執行に係る情報については、文書管理規程等に従い、文書または電磁的に記録し、適切に保存及び管理を行う。
- ・当社の取締役及び監査役は、文書管理規程等に従いこれら文書を常時閲覧できるものとする。
- ・当社の文書管理規程等を変更する場合は、監査役会の承認を得るものとする。

(当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制)

- ・当社のリスク管理規程に従い、個々のリスクについて管理責任者を決定し、リスクに対し適切な予防と対策を行う。
- ・当社の重大な事故、災害、不祥事等が発生した場合には、当社社長を本部長とする対策本部を設置し、損失を最小限に止める体制を整える。

(当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制)

- ・当社の取締役会は3事業年度を期間とするグループ中期経営計画を定め、グループ会社全体として達成すべき目標を明確にする。
- ・当社の取締役会の下部組織として当社の経営会議等を積極的に活用し、取締役の職務の執行の効率性を確保する。
- ・当社の組織規程、業務分掌規程に従い、担当部門、職務権限等を明確化する。

(当社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制)

- ・ 役職員行動規範、コンプライアンス委員会規程に従い、及び内部監査を担当する当社の内部監査室により、法令等違反行為の未然防止を図る。
- ・ 当社の内部通報制度により、社内または社外の窓口にご相談できる体制とする。

(子会社の取締役の職務の執行に係わる事項の当社への報告に対する体制)

- ・ 当社及び子会社の取締役が出席する子会社役員会を月1回開催し、子会社において重要な事象が発生した場合には、子会社に対し適宜報告を義務付ける。

(子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制)

- ・ 当社は、当社グループ全体のリスク管理について定めるリスク管理規程に従い、個々のリスクについて管理責任者を決定し、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する。

(子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制)

- ・ 当社は3事業年度を期間とするグループ中期経営計画を策定し、当該中期経営計画を具体化するため、毎事業年度ごとのグループ全体の重点目標を定める。

(子会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制)

- ・ 当社は、当社グループの取締役及び使用人に対し、年1回、法令遵守等に関する研修を行い、コンプライアンス意識の醸成を図る。

(当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制)

- ・ 子会社との間で一定のルールを定め、子会社の重要事項の決定については親会社の承認を得るものとする。
- ・ 子会社との取引についても、第三者との取引と同等の基準で審査し、適正を確保する。

(監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項)

- ・ 取締役は、監査役がその職務を補助するための使用人を求めた場合は、これに応じ使用人を任命する。

(監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項)

- ・ 監査役を補助すべき使用人は、監査役の指揮・命令に従わなければならない。当該使用人の任命及び解職については監査役会の同意を必要とする。

(監査役を補助する使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項)

- ・ 監査役を補助すべき使用人は、他部署の使用人を兼務せず、監査役の指揮命令に従わなければならない。

(当社及び子会社の取締役及び使用人が監査役に報告するための体制)

- ・ 当社グループの役職員は、法令等の違反行為等、当社または子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実については、これを発見次第、直ちに当社の監査役または監査役会に対して報告を行う。
- ・ 内部通報制度を担当するコンプライアンス委員会は、当社グループの取締役及び使用人からの内部通報の状況について、定期的に当社監査役に対して報告する。

(監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制)

- ・ 監査役への報告を行った当社グループの取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループ会社の取締役及び使用人に周知徹底する。

(監査役を補助する使用人の職務の執行について生ずる費用等の処理に関する体制)

- ・ 監査役がその職務の執行について生ずる費用等の請求の手続きを定め、監査役から費用の前払い等の請求または償還等の請求があった場合には、当該請求が監査役の職務の執行に必要なと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

(その他監査役を補助する使用人の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制)

- ・ 監査役会に対して、取締役及び使用人からヒアリングを実施する機会を与えることとともに、代表取締役、会計監査人とそれぞれ定期的に意見交換会を開催することとする。
- ・ 常勤監査役は、コンプライアンス委員会に委員として出席する。

(当社の財務報告の信頼性を確保するための体制)

- ・ 財務報告の信頼性の確保のため、内部統制システムを構築しており、その仕組みが適正に機能していることを内部監査室が定期的に評価し社長に報告をする。また、内部監査室が、財務報告における虚偽記載リスクを低減し、未然に防ぐよう監査することで、内部統制が有効に機能する体制としている。

(当社の反社会的勢力排除に向けた体制)

- ・ 反社会的勢力とは、一切の関係を遮断し、不当要求には毅然とした態度で対応する事を「役職員行動規範」に定めている。また、反社会勢力の対応統括部署を人事総務部と定めており、警察と連携し、反社会的勢力からの不当要求等を排除する体制としている。

c. リスク管理体制の整備の状況

「内部統制システムに関する基本方針」に記載された「損失の危険の管理に関する規程その他の体制」を整備しております。

d. 取締役（業務執行取締役等である者を除く）、社外監査役との間で締結した責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項及び当社定款第29条の規定により、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）との間で、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合において、損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

また、当社は、会社法第427条第1項及び当社定款第39条の規定により、社外監査役との間で、会社法423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合において、損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、監査役会をその中核に据えて、公認会計士として見識を有する者及び医療業界における専門的な知識、経験を有する者を社外監査役に選任し、当該社外監査役を中心とした監査役会による監査の実施などにより社外のチェック体制が機能しており、経営監視機能の客観性及び中立性が確保できていると考えております。

会計監査人と四半期に1回の頻度で会合を持ち、監査計画などについて協議しております。社外監査役のサポート体制については、原則月1回開催される取締役会の説明資料の事前配布や主要な使用人からヒアリングを実施できる体制を確保しています。経営会議での審議報告された案件、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項、内部監査状況及びリスク管理に関する重要な事項、重大な法令違反などが、取締役会及び内部監査担当部署から遅滞なく報告される体制を整備しています。

内部監査については、代表取締役社長直属の内部監査室（専従2名）において、関連各部署と連携しながら定期的実施しています。

社外取締役及び社外監査役

- ・当社の社外取締役は2名であります。また、社外監査役は2名であります。（平成30年6月25日現在）

氏名	当社との利害関係及び当社の企業統治において果たしている役割
石川浩司 （社外取締役）	社外取締役石川浩司氏は、大原法律事務所所属する弁護士を兼務しております。なお、当社と同氏との間に特別な利害関係はありません。同社外取締役は、弁護士としての幅広い知識や経験をもとに、また法律の専門家として当社の経営に対する助言等をいただくことで、当社の経営上の意思決定や取締役の業務執行の監督等を行っております。なお、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。また、一般株主との利益相反の生ずるおそれがある事項にいずれも該当していません。
佐分紀夫 （社外取締役）	社外取締役佐分紀夫氏と当社との間に特別な利害関係はありません。同社外取締役は、公認会計士として培われた専門的な知識、さらに企業経営に携わった経験を有しており、当社の経営に対する助言等をいただくことで、当社の経営上の意思決定や取締役の業務執行の監督等を行います。なお、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。また、一般株主との利益相反の生ずるおそれがある事項にいずれも該当していません。
大石洋司 （社外監査役）	社外監査役大石洋司氏は、医療業界で培われた専門的知識と経験を活かして、独立的な視点で当社の経営上の意思決定や取締役の業務執行の監督等を行っております。なお、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。また、一般株主との利益相反の生ずるおそれがある事項にいずれも該当していません。
山田美代子 （社外監査役）	社外監査役山田美代子氏は、山田公認会計士事務所公認会計士及び有限会社メリッサ代表取締役を兼務しております。なお、当社と同氏との間に特別な利害関係はありません。同社外監査役は、公認会計士として培われた専門的な知識・経験等をもとに当社の経営上の意思決定や取締役の業務執行の監督等を行います。なお、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。また、一般株主との利益相反の生ずるおそれがある事項にいずれも該当していません。

・社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

当社は、「独立役員にかかる独立性判断基準」を策定しており、社外取締役及び社外監査役候補者の選定にあたっては、「独立役員にかかる独立性判断基準」を満たすことを前提に、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与するように、専門的な知識と豊富な経験に基づき、取締役会において独立した立場で率直かつ活発で建設的な助言を行える人物を選定するように努めています。社外取締役は、公認会計士資格を有し上場会社の企業経営経験を有する者1名、企業法務・コンプライアンス及び内部統制に精通した弁護士1名の独立社外取締役2名を選任しています。社外監査役は、公認会計士として財務・会計に関する豊富な知見と経験を有する者1名、医療業界で培われた専門的知識と経験を有しコンプライアンスに精通した者1名の独立社外監査役2名を選任しています。

・独立役員にかかる独立性判断基準

1. 以下各号のいずれにも該当しない場合に、当該候補者は独立性を有するものと判断する。

- (1) 当社または当社の関係会社の業務執行者である者、または過去において業務執行者であった者。
またその者の近親者（配偶者、三親等内の親族もしくは同居の親族）
- (2) 当社または子会社の主要な取引先である者。それらの者が会社等の法人である場合、当該法人、その親会社、または重要な子会社の業務執行者である者、または最近3年間に於いて業務執行者であった者。
またその者の近親者（配偶者、三親等内の親族もしくは同居の親族）
- (3) 当社の現在の株主（議決権所有割合10%以上）である者。それらの者が会社等の法人である場合、当該法人、その親会社、または重要な子会社の業務執行者である者、または最近3年間に於いて業務執行者であった者。
- (4) 現在、当社または子会社の会計監査人または当該会計監査人の社員等である者。
- (5) 法律事務所、監査法人、税理士事務所、コンサルティングファーム等であって、当社または子会社を主要な取引先とする法人の業務執行者である者、または最近3年間に於いて業務執行者であった者。またその者の近親者（配偶者、三親等内の親族もしくは同居の親族）
- (6) 最近3年間に於いて、当社または子会社からの多額の金銭を受領している弁護士、公認会計士または税理士その他コンサルタント等の個人である者。またその者の近親者（配偶者、三親等内の親族もしくは同居の親族）
- (7) 当社または子会社から多額の寄付金を受領している者。それらの者が会社等の法人である場合、当該法人、その親会社、または重要な子会社の業務執行者である者、または最近3年間に於いて業務執行者であった者。

2. 当社は、取引先または寄付金等について、以下の基準を充足する場合には、当該独立役員の独立性が十分に認められ、株主の議決権行使の判断に影響を及ぼすおそれがないものと判断し、「主要な取引先」ないしは「多額の寄付金等」に該当しないものとする。

- (1) 取引先との取引金額が売上高の2%未満
- (2) 寄付金等は年間1,000万円未満

役員の報酬等

・役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	業績連動型 株式報酬	
取締役 (社外取締役を除く。)	184	120	-	51	13	8
監査役 (社外監査役を除く。)	14	14	-	-	-	2
社外役員	22	22	-	-	-	4

(注) 業績連動型株式報酬制度の対象となっている取締役(社外取締役を除く)は5名です。

・ 役員の報酬等の額の決定に関する事項

取締役会は、経営陣の報酬等につき、透明性・客観性を高めるため、指名・報酬諮問委員会にて内容を検討した上、株主総会で承認を受けた報酬総額の範囲内で、取締役会の決議により決定いたします。

(1) 取締役

- ・ 取締役の報酬等は、その役割と責務に相応しい水準となるよう、企業業績と中長期の企業価値の持続的な向上に対する動機付けに配慮した体系とします。なお、取締役会は、同方針に基づき、短期及び中長期の業績と連動する報酬の割合を適切に設定します。
- ・ 独立社外取締役の報酬等は、各独立社外取締役が当社の業務に関与する職責が反映されたものとし、かつ、株式関連報酬その他の業績連動型の要素を含まないものとしします。

(2) 監査役

- ・ 監査役会は、監査役の報酬等につき、監査業務の分担の状況を考慮し、株主総会で承認を受けた報酬総額の範囲内で、監査役の協議をもって各監査役が受ける報酬等の額を決定いたします。

・ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

株式の保有状況

a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

c. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は優成監査法人の小松亮一氏、石上卓哉氏であり、その補助者は公認会計士4名、その他7名であります。

なお、平成19年8月24日開催の第35回定時株主総会において優成監査法人が当社の会計監査人として選任され、現在に至っております。また、継続監査年数が7年を超える業務執行社員はおりません。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会において、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上に当たる多数をもってこれを決する旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項

当社は、機動的な資本政策の実行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。また、株主への機動的な利益還元を目的として、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	19	-	19	-
連結子会社	-	-	-	-
計	19	-	19	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社であるOrtho Development Corporationは、当社の会計監査人と同一のネットワークに属しているCrowe Horwath Internationalのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬113千米ドルを支払っております。

当連結会計年度

当社の連結子会社であるOrtho Development Corporationは、当社の会計監査人と同一のネットワークに属しているCrowe Horwath Internationalのメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬133千米ドルを支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、優成監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、会計に関する研修会への参加ならびに会計専門書の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,793,079	2,457,900
受取手形及び売掛金	3,963,937	3 4,406,539
商品及び製品	5,407,669	5,245,620
仕掛品	180,851	328,618
原材料及び貯蔵品	1,120,266	837,416
繰延税金資産	390,090	272,555
その他	161,056	110,395
貸倒引当金	10,822	11,982
流動資産合計	14,006,129	13,647,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 651,449	1 670,038
機械装置及び運搬具（純額）	1 247,772	1 206,208
工具、器具及び備品（純額）	1 3,781,720	1 3,618,563
土地	2,160,270	1,987,593
その他	26,144	15,773
有形固定資産合計	6,867,358	6,498,177
無形固定資産	102,174	85,632
投資その他の資産		
繰延税金資産	489,772	582,062
その他	72,143	57,605
貸倒引当金	15	12
投資その他の資産合計	561,900	639,656
固定資産合計	7,531,433	7,223,466
資産合計	21,537,563	20,870,527

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	578,512	737,604
短期借入金	4,535,982	3,683,775
リース債務	94,344	67,674
未払法人税等	143,964	133,442
未払費用	282,557	316,068
未払金	178,933	316,078
割賦未払金	247,436	72,126
賞与引当金	179,664	165,697
役員賞与引当金	60,972	51,260
その他	211,225	12,327
流動負債合計	6,513,592	5,556,055
固定負債		
長期借入金	1,403,672	710,141
リース債務	194,413	126,739
退職給付に係る負債	743,154	949,231
役員株式給付引当金	15,808	26,994
資産除去債務	26,675	26,611
長期未払金	420	-
長期割賦未払金	112,032	39,905
長期預り金	3,500	5,500
繰延税金負債	236,000	166,039
固定負債合計	2,735,676	2,051,162
負債合計	9,249,269	7,607,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,001,929	3,001,929
資本剰余金	2,587,029	2,587,029
利益剰余金	6,365,607	7,605,845
自己株式	78,289	76,244
株主資本合計	11,876,276	13,118,559
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	18,500	6,730
為替換算調整勘定	478,776	311,312
退職給付に係る調整累計額	105,622	203,166
その他の包括利益累計額合計	391,655	114,877
非支配株主持分	20,361	29,872
純資産合計	12,288,293	13,263,309
負債純資産合計	21,537,563	20,870,527

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	13,629,522	14,807,726
売上原価	¹ 3,921,127	¹ 4,166,337
売上総利益	9,708,395	10,641,388
販売費及び一般管理費		
販売促進費	314,603	319,067
運賃及び荷造費	234,749	282,095
広告宣伝費	55,432	68,962
貸倒引当金繰入額	223	1,157
給料及び手当	2,496,547	2,661,554
退職給付費用	77,121	81,369
法定福利費	242,110	248,835
福利厚生費	134,658	150,419
旅費及び交通費	282,003	332,038
減価償却費	819,028	901,619
研究開発費	² 480,146	² 594,881
租税公課	134,273	122,865
支払手数料	1,452,830	1,703,655
その他	1,074,785	1,127,518
販売費及び一般管理費合計	7,798,514	8,596,040
営業利益	1,909,880	2,045,347
営業外収益		
受取利息	217	244
受取手数料	4,597	11,439
為替差益	-	49,395
その他	4,612	4,520
営業外収益合計	9,427	65,599
営業外費用		
支払利息	117,367	124,176
手形売却損	899	-
為替差損	21,346	-
シンジケートローン手数料	11,344	12,436
その他	20,776	9,425
営業外費用合計	171,734	146,037
経常利益	1,747,573	1,964,909
特別損失		
固定資産除却損	³ 173,713	³ 45,400
減損損失	-	⁴ 186,654
特別損失合計	173,713	232,055
税金等調整前当期純利益	1,573,860	1,732,854
法人税、住民税及び事業税	209,551	288,017
法人税等調整額	234,919	6,900
法人税等合計	444,470	294,917
当期純利益	1,129,389	1,437,936
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失()	1,314	12,470
親会社株主に帰属する当期純利益	1,130,703	1,425,466

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	1,129,389	1,437,936
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	49,656	11,769
為替換算調整勘定	10,729	170,423
退職給付に係る調整額	155	97,544
その他の包括利益合計	1 39,081	1 279,737
包括利益	1,168,471	1,158,199
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,161,446	1,148,688
非支配株主に係る包括利益	7,024	9,510

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,001,929	2,587,029	5,393,670	26,280	10,956,348
当期変動額					
剰余金の配当			158,767		158,767
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,130,703		1,130,703
自己株式の取得				52,008	52,008
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	971,936	52,008	919,927
当期末残高	3,001,929	2,587,029	6,365,607	78,289	11,876,276

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	31,155	497,845	105,777	360,912	13,337	11,330,598
当期変動額						
剰余金の配当						158,767
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,130,703
自己株式の取得						52,008
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	49,656	19,068	155	30,742	7,024	37,767
当期変動額合計	49,656	19,068	155	30,742	7,024	957,694
当期末残高	18,500	478,776	105,622	391,655	20,361	12,288,293

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,001,929	2,587,029	6,365,607	78,289	11,876,276
当期変動額					
剰余金の配当			185,228		185,228
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,425,466		1,425,466
自己株式の取得				188	188
自己株式の処分				2,233	2,233
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,240,238	2,044	1,242,283
当期末残高	3,001,929	2,587,029	7,605,845	76,244	13,118,559

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	18,500	478,776	105,622	391,655	20,361	12,288,293
当期変動額						
剰余金の配当						185,228
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,425,466
自己株式の取得						188
自己株式の処分						2,233
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	11,769	167,463	97,544	276,777	9,510	267,267
当期変動額合計	11,769	167,463	97,544	276,777	9,510	975,015
当期末残高	6,730	311,312	203,166	114,877	29,872	13,263,309

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,573,860	1,732,854
減価償却費	930,047	1,014,742
貸倒引当金の増減額(は減少)	223	1,157
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	50,292	42,667
退職給付に係る調整累計額の増減額(は減少)	21,749	23,343
賞与引当金の増減額(は減少)	13,434	13,966
役員賞与引当金の増減額(は減少)	29,508	9,712
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	15,808	13,420
受取利息及び受取配当金	217	244
支払利息	117,367	124,176
手形売却損	899	-
シンジケートローン手数料	11,344	12,436
為替差損益(は益)	9,871	21,814
固定資産除売却損益(は益)	173,713	45,400
減損損失	-	186,654
売上債権の増減額(は増加)	580,558	483,978
たな卸資産の増減額(は増加)	312,323	91,962
仕入債務の増減額(は減少)	28,935	190,581
未払又は未収消費税等の増減額	259,552	205,735
その他	120,087	210,346
小計	2,385,981	2,954,291
利息及び配当金の受取額	216	238
利息の支払額	115,429	78,982
シンジケートローン手数料の支払額	12,563	12,697
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	220,011	300,317
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,038,193	2,562,533
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,056,376	1,001,271
無形固定資産の取得による支出	20,721	15,723
その他	1,272	960
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,078,371	1,016,035
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	933,734	498,735
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	1,142,082	849,931
リース債務の返済による支出	89,925	94,344
セール・アンド・リースバックによる収入	209,912	-
割賦債務の返済による支出	240,181	247,436
自己株式の取得による支出	52,008	188
配当金の支払額	159,444	185,114
財務活動によるキャッシュ・フロー	39,996	1,875,750
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,177	5,927
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	923,003	335,179
現金及び現金同等物の期首残高	1,870,076	2,793,079
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,793,079	1 2,457,900

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社
Ortho Development Corporation

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はないため、記載すべき事項はありません。

3 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社Ortho Development Corporationの決算日は連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

デリバティブ

時価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

a 商品及び製品

総平均法

b 原材料及び貯蔵品

総平均法

c 仕掛品

総平均法

但し、在外子会社の製品、原材料、仕掛品については先入先出法による低価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

リース資産以外の有形固定資産

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 6～65年

機械装置及び運搬具 4～17年

工具、器具及び備品 2～15年

リース資産以外の無形固定資産

定額法

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えて、一般債権については、貸倒実績率等を勘案した必要額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に債権の回収可能性を勘案した回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員株式給付引当金

株式交付規程に基づく役員への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における要給付見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（主として14年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算しております。換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。但し、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を行っております。また金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段... 為替予約取引、通貨スワップ取引及び通貨オプション取引、金利スワップ取引

ヘッジ対象... 商品仕入に係る外貨建金銭債務及び予定取引、借入金の利息

ヘッジ方針

外貨建金銭債務について、為替予約等により円貨額を確定させ、為替変動リスクを回避することを目的としております。また、借入金の金利変動リスクを回避することを目的とし、金利スワップを行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から当連結会計年度末までの期間において、ヘッジ手段の実行額の累計とヘッジ対象の決済額の累計とを比較して有効性の判定を行っております。但し、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは5年間で均等償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資を資金の範囲としております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

(役員向け株式交付信託)

当社は、当社取締役(社外取締役を除く。以下同じ。)を対象とする業績連動型株式報酬制度を導入しております。

1. 取引の概要

本制度は、当社が取締役を受益者とする金銭を拠出する信託(以下「本信託」)を設定し、当該信託が当社株式を取得し、株式交付規程に基づき、各取締役に対し、信託期間中の定時株主総会開催日(ただし、任期途中で退任する制度対象者には退任日)の役位と、直前に終了する連結会計年度における業績達成度に応じて算定される数のポイントを付与します。

2. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価格(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価格は49,704千円、株式数は59,627株であります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	6,846,877千円	7,362,144千円

2 コミットメントライン契約

(前連結会計年度)

当社及び連結子会社では、機動的な資金調達と安定性の確保を狙いとし金融機関と短期コミットメントライン契約を締結しております。

当連結会計年度末における短期コミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円
借入実行残高	1,660,560千円
差引	339,440千円

(当連結会計年度)

当社及び連結子会社では、機動的な資金調達と安定性の確保を狙いとし金融機関と短期コミットメントライン契約を締結しております。

当連結会計年度末における短期コミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円
借入実行残高	1,466,526千円
差引	533,474千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形及び売掛金	- 千円	57,303千円

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の商品評価損(は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価	75,088千円	302,939千円

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	480,146千円	594,881千円

なお、当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

3 固定資産除却損の主な内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
建物及び構築物	- 千円	812千円
機械装置及び運搬具	1,024千円	1,785千円
工具、器具及び備品	172,688千円	46,373千円

4 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失額(千円)
神奈川県相模原市	遊休資産	建物及び構築物	171,188
		土地	15,466

当社グループは、遊休資産について、個別資産をグルーピングの単位としております。

今後事業の用に供する予定が無いため、当該資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該資産の回収可能価額は、不動産鑑定評価額に基づいた正味売却価額により算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	71,819千円	16,963千円
組替調整額	- 千円	- 千円
税効果調整前	71,819千円	16,963千円
税効果額	22,163千円	5,194千円
繰延ヘッジ損益	49,656千円	11,769千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	10,729千円	170,423千円
組替調整額	- 千円	- 千円
税効果調整前	10,729千円	170,423千円
税効果額	- 千円	- 千円
為替換算調整勘定	10,729千円	170,423千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	21,524千円	163,409千円
組替調整額	21,749千円	23,343千円
税効果調整前	225千円	140,066千円
税効果額	70千円	42,521千円
退職給付に係る調整額	155千円	97,544千円
その他包括利益合計	39,081千円	279,737千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式				
普通株式	26,475,880	-	-	26,475,880
合計	26,475,880	-	-	26,475,880
自己株式				
普通株式(注)	14,609	62,498	-	77,107
合計	14,609	62,498	-	77,107

(注) 1 自己株式の普通株式の増加は、役員向け株式交付信託による取得62,400株、単元未満株式の買い取り98株によるものであります。

2 上記当連結会計年度末の自己株式数には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式62,400株を含めております。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	158,767	6.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	185,228	7.00	平成29年 3月31日	平成29年 6月23日

(注) 平成29年6月22日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する自社の株式に対する配当金436千円が含まれております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 (株)	増加 (株)	減少 (株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式				
普通株式	26,475,880	-	-	26,475,880
合計	26,475,880	-	-	26,475,880
自己株式				
普通株式(注)	77,107	184	2,773	74,518
合計	77,107	184	2,773	74,518

(注) 1 自己株式の普通株式の増加は、役員向け株式交付信託による取得100株、単元未満株式の買い取り84株によるものであります。また、自己株式の普通株式の減少は、役員向け株式交付信託における自己株式の処分によるものであります。

2 上記当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式がそれぞれ62,400株、59,627株含まれております。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	185,228	7.00	平成29年3月31日	平成29年6月23日

(注) 平成29年6月22日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する自社の株式に対する配当金436千円が含まれております。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	211,687	8.00	平成30年 3月31日	平成30年 6月22日

(注) 平成30年6月21日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する自社の株式に対する配当金477千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	2,793,079千円	2,457,900千円
現金及び現金同等物	2,793,079千円	2,457,900千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、医療工具(工具、器具及び備品)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年以内	17,594千円	13,884千円
1年超	16,662千円	6,261千円
合計	34,257千円	20,145千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期の預金で運用し、資金調達については銀行借入等によっています。デリバティブは、借入金の金利変動リスク及び外貨建て金銭債権債務に係る為替変動リスクを回避するための利用に限定しており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、社内規程に従いリスク低減を図っております。

金利の変動リスクに関しては、金利の相場を定期的に把握しております。長期借入金については金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、固定金利以外のものについては個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用しております。

なお、デリバティブ取引は、取引権限や取引範囲等を定めた社内規程に基づき管理等を行っております。また、デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注2)参照)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,793,079	2,793,079	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,963,937	3,963,937	-
資産計	6,757,017	6,757,017	-
(1) 支払手形及び買掛金	578,512	578,512	-
(2) 短期借入金	3,680,160	3,680,160	-
(3) 長期借入金(1年内返済分を含む)	2,259,494	2,263,414	3,920
(4) 割賦未払金	359,468	361,243	1,775
(5) リース債務	288,758	288,798	39
負債計	7,166,393	7,172,128	5,735
デリバティブ()	26,757	26,757	-

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額を表示しており、合計で正味の債務となる場合は、() で示しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,457,900	2,457,900	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,406,539	4,406,539	-
資産計	6,864,439	6,864,439	-
(1) 支払手形及び買掛金	737,604	737,604	-
(2) 短期借入金	3,007,441	3,007,441	-
(3) 長期借入金(1年内返済分を含む)	1,386,475	1,388,750	2,275
(4) 割賦未払金	112,032	112,014	17
(5) リース債務	194,413	194,430	16
負債計	5,437,966	5,440,241	2,274
デリバティブ()	9,701	9,701	-

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額を表示しており、合計で正味の債務となる場合は、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 長期借入金(1年内返済分を含む)、(4) 割賦未払金及び(5) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入または、割賦・リース取引を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。

変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

後述の(デリバティブ取引関係)注記を参照してください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

(注3) 金銭債権等の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,793,079	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,963,937	-	-	-
合計	6,757,017	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,457,900	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,406,539	-	-	-
合計	6,864,439	-	-	-

(注4) 短期借入金、長期借入金、割賦未払金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	3,680,160	-	-	-	-	-
長期借入金(1年以内返済予定分を含む)	855,822	716,752	433,692	200,032	53,196	-
割賦未払金	247,436	72,126	36,807	3,097	-	-
リース債務	94,344	67,674	30,621	30,686	30,750	34,680
合計	4,877,762	831,553	527,791	233,815	82,276	34,680

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	3,007,441	-	-	-	-	-
長期借入金(1年以内返済予定分を含む)	676,334	431,913	225,032	53,196	-	-
割賦未払金	72,126	36,807	3,097	-	-	-
リース債務	67,674	30,621	30,686	30,750	30,815	3,864
合計	3,823,576	499,342	258,815	83,946	30,815	3,864

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金 (注)1	700,000	500,000	(注)2

(注)1 想定元本を契約額等として表示しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金 (注)1	500,000	300,000	(注)2

(注)1 想定元本を契約額等として表示しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該借入金の時価に含めて記載しております。

為替関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
為替予約の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	519,400	-	26,757

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
為替予約の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	1,036,060	-	9,701

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職給付制度として、退職一時金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
退職給付債務の期首残高	671,338	743,154
勤務費用	48,793	50,743
利息費用	6,579	7,282
数理計算上の差異の発生額	21,524	163,409
その他	5,080	15,359
退職給付債務の期末残高	743,154	949,231

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月 31日)
退職給付に係る負債	743,154	949,231
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	743,154	949,231

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
勤務費用	48,793	50,743
利息費用	6,579	7,282
数理計算上の差異の費用処理額	21,749	23,343
確定給付制度に係る退職給付費用	77,121	81,369

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
数理計算上の差異	225	140,066

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月 31日)
未認識数理計算上の差異	152,765	292,831
合計	152,765	292,831

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表している。)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
割引率	1.0%	1.0%

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	17,904千円	15,526千円
賞与引当金	55,444千円	50,736千円
貸倒引当金	19,598千円	9,603千円
たな卸資産の未実現利益	58,202千円	53,272千円
未払費用	14,539千円	13,426千円
商品評価損	184,832千円	160,767千円
在外子会社のたな卸資産評価引当額	195,111千円	67,822千円
事業再構築関連費用	3,780千円	-千円
その他	95,329千円	119,680千円
繰延税金負債(流動)との相殺	26,246千円	4,736千円
小計	502,090千円	379,555千円
評価性引当額	112,000千円	107,000千円
繰延税金資産(流動)合計	390,090千円	272,555千円
繰延税金資産(固定)		
繰越欠損金	1,194,879千円	988,104千円
退職給付に係る負債	228,102千円	290,654千円
減損損失	-千円	57,153千円
その他	3,789千円	4,149千円
繰延税金負債(固定)との相殺	-千円	-千円
小計	1,426,772千円	1,340,062千円
評価性引当額	937,000千円	758,000千円
繰延税金資産(固定)合計	489,772千円	582,062千円
繰延税金負債(固定)		
減価償却費	542,945千円	371,596千円
繰延税金資産(固定)との相殺	306,944千円	205,557千円
繰延税金負債(固定)合計	236,000千円	166,039千円
繰延税金資産合計	643,862千円	688,578千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8%	2.0%
住民税均等割等	2.7%	2.8%
研究開発費	5.7%	1.4%
評価性引当金	0.4%	10.6%
税率差異	0.7%	1.3%
税率変更による期末繰延税金資産・負債の減額修正	-%	8.1%
その他	0.4%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.2%	17.0%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

商品センター及び営業所関連の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から20年と見積り、割引率は0.58%から2.04%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
期首残高	21,469千円	26,675千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	4,850千円	1,399千円
時の経過による調整額	356千円	369千円
資産除去債務の履行による減少額	- 千円	1,833千円
期末残高	26,675千円	26,611千円

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当企業集団における事業の種類は「医療機器事業」の単一セグメントであります。報告セグメントは分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当企業集団は「整形外科分野を中心とした医療機器類」を製造・販売しており、日本には親会社である株式会社日本エム・ディ・エム（以下「当社」）、米国には海外子会社Ortho Development Corporation（以下「ODEV社」）が独立した経営単位として事業活動を展開しております。

したがって当企業集団は、製造・販売を基礎とした地域別（国別）セグメントから構成されており、「日本」、「米国」の2つを報告セグメントとしております。

「日本」では、当社が整形外科分野における人工関節、骨接合材料、脊椎固定器具等製商品を主にODEV社、その他販売提携契約等に基づき国内外メーカーから仕入れ、日本国内において販売を行っております。また「米国」では、ODEV社が人工関節、骨接合材料、脊椎固定器具等の開発製造を行い当社に対して製品供給を行うとともに、独自に米国市場を中心に人工関節、脊椎固定器具等製品の販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)1,2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,063,313	4,566,209	13,629,522	-	13,629,522
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,380,974	2,380,974	2,380,974	-
計	9,063,313	6,947,183	16,010,497	2,380,974	13,629,522
セグメント利益	1,062,425	494,090	1,556,516	353,363	1,909,880
セグメント資産	13,260,008	7,896,677	21,156,685	380,877	21,537,563
セグメント負債	4,030,987	5,220,083	9,251,070	1,800	9,249,269
その他の項目					
減価償却費	469,089	498,576	967,665	37,618	930,047
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	363,514	762,740	1,126,255	19,162	1,107,092

(注) 1 セグメント利益、セグメント資産、セグメント負債及びその他の項目の調整額には、セグメント間取引消去額を表示しております。

2 セグメント資産の調整額380,877千円には、全社資産の金額2,717,455千円（その主なものは、当社の現金・預金であります。）、及びたな卸資産の調整額936,666千円が含まれています。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)1,2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,545,525	5,262,201	14,807,726	-	14,807,726
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	3,092,777	3,092,777	3,092,777	-
計	9,545,525	8,354,978	17,900,503	3,092,777	14,807,726
セグメント利益	959,976	1,002,778	1,962,754	82,592	2,045,347
セグメント資産	13,516,298	7,550,752	21,067,051	196,524	20,870,527
セグメント負債	3,421,353	4,298,813	7,720,166	112,948	7,607,218
その他の項目					
減価償却費	520,588	537,155	1,057,743	43,001	1,014,742
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	585,661	460,370	1,046,031	50,612	995,419

(注) 1 セグメント利益、セグメント資産、セグメント負債及びその他の項目の調整額には、セグメント間取引消去額を表示しております。

2 セグメント資産の調整額 196,524千円には、全社資産の金額2,368,020千円(その主なものは、当社の現金・預金であります。)、及びたな卸資産の調整額929,398千円が含まれています。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当企業集団における事業の種類は「医療機器事業」のみであるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当企業集団における事業の種類は「医療機器事業」のみであるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	日本	米国	計				
減損損失	186,654	-	186,654	-	186,654	-	186,654

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	日本	米国	計			
当期償却額	-	-	-	-	10,828	10,828
当期末残高	-	-	-	-	14,837	14,837

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	日本	米国	計			
当期償却額	-	-	-	-	10,992	10,992
当期末残高	-	-	-	-	3,513	3,513

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

- 1 関連当事者との取引
該当事項はありません。
- 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	464円72銭	501円24銭
1株当たり当期純利益金額	42円78銭	53円99銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	潜在株式が存在しないため記載して おりません。	潜在株式が存在しないため記載して おりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,130,703	1,425,466
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,130,703	1,425,466
普通株式の期中平均株式数(株)	26,427,599	26,400,409

(注) 株主資本において自己株式として計上されている役員向け株式交付信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、当連結会計年度60,694株、前連結会計年度33,600株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は当連結会計年度59,627株、前連結会計年度62,400株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,535,982	3,683,775	2.365	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,403,672	710,141	1.156	平成33年
その他有利子負債(1年以内)リース債務	94,344	67,674	-	-
その他有利子負債(1年超)長期リース債務	194,413	126,739	0.416	平成35年
その他有利子負債(1年以内)割賦未払金	247,436	72,126	-	-
その他有利子負債(1年超)長期割賦未払金	112,032	39,905	2.893	平成32年
合計	6,587,880	4,700,361	-	-

(注) 1 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)、長期リース債務及び長期割賦未払金の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	431,913	225,032	53,196	-
長期リース債務	30,621	30,686	30,750	30,815
長期割賦未払金	36,807	3,097	-	-

- 2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の「平均利率」については、1年以内に返済予定の長期借入金も長期借入金に含み、期中借入金の増減すべてに対する加重平均利率を記載しております。
- 3 リース債務、割賦未払金の平均利率については、流動部分もそれぞれ長期リース債務、長期割賦未払金に含み、期中の加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高 (千円)	3,369,530	6,614,132	10,645,361	14,807,726
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	440,337	756,272	1,435,501	1,732,854
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 (千円)	280,079	487,205	973,420	1,425,466
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	10.61	18.46	36.87	53.99

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.61	7.85	18.42	17.12

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,717,455	2,368,020
受取手形	1,058,788	4 992,381
電子記録債権	816,539	1,134,450
売掛金	1,404,700	1,510,045
商品及び製品	3,353,363	3,393,098
仕掛品	15,542	15,477
原材料及び貯蔵品	18,525	30,996
前払費用	33,960	33,052
繰延税金資産	290,073	296,174
短期貸付金	960	804
未収入金	1 15,325	1 16,147
未収消費税等	-	6,076
その他	34,480	14,993
貸倒引当金	10,872	12,035
流動資産合計	9,748,843	9,799,684
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,258,183	1,267,277
減価償却累計額	833,080	850,047
建物（純額）	425,102	417,230
構築物	3,376	3,376
減価償却累計額	2,807	2,846
構築物（純額）	569	530
機械及び装置	21,642	21,642
減価償却累計額	20,776	20,992
機械及び装置（純額）	865	649
車両運搬具	3,967	5,067
減価償却累計額	2,404	2,859
車両運搬具（純額）	1,562	2,207
工具、器具及び備品	5,858,441	6,097,380
減価償却累計額	3,733,004	3,976,405
工具、器具及び備品（純額）	2,125,437	2,120,975
土地	2,132,108	1,960,919
有形固定資産合計	4,685,645	4,502,512
無形固定資産		
ソフトウェア	31,138	34,078
電話加入権	9,170	9,170
無形固定資産合計	40,308	43,248

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
投資その他の資産		
関係会社株式	988,882	988,882
従業員に対する長期貸付金	4,690	3,886
繰延税金資産	442,628	492,397
差入保証金	64,277	51,518
その他	2,200	2,200
貸倒引当金	15	12
投資その他の資産合計	1,502,665	1,538,873
固定資産合計	6,228,619	6,084,634
資産合計	15,977,463	15,884,319
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 448,904	1 576,308
1年内返済予定の長期借入金	373,362	400,032
リース債務	94,344	67,674
未払金	1 180,359	1 319,915
割賦未払金	247,436	72,126
未払費用	69,316	71,283
未払法人税等	143,871	124,317
未払消費税等	199,659	-
賞与引当金	179,664	165,697
役員賞与引当金	60,972	51,260
預り金	11,565	12,327
流動負債合計	2,009,456	1,860,942
固定負債		
長期借入金	1,078,292	678,260
リース債務	194,413	126,739
退職給付引当金	590,389	656,400
役員株式給付引当金	15,808	26,994
長期末払金	420	-
長期割賦未払金	112,032	39,905
長期預り金	3,500	5,500
資産除去債務	26,675	26,611
固定負債合計	2,021,531	1,560,410
負債合計	4,030,987	3,421,353

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,001,929	3,001,929
資本剰余金		
資本準備金	2,587,029	2,587,029
資本剰余金合計	2,587,029	2,587,029
利益剰余金		
利益準備金	197,500	197,500
その他利益剰余金		
別途積立金	4,913,000	4,913,000
繰越利益剰余金	1,306,806	1,833,020
利益剰余金合計	6,417,306	6,943,520
自己株式	78,289	76,244
株主資本合計	11,927,975	12,456,234
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	18,500	6,730
評価・換算差額等合計	18,500	6,730
純資産合計	11,946,476	12,462,965
負債純資産合計	15,977,463	15,884,319

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高		
商品売上高	9,063,313	9,545,525
売上高合計	9,063,313	9,545,525
売上原価		
商品期首たな卸高	3,792,186	3,179,170
商品他勘定受入高	2 20,749	2 14,672
当期商品仕入高	1,3 2,905,382	1,3 3,522,495
合計	6,718,319	6,716,338
商品期末たな卸高	3,179,170	3,053,071
商品売上原価	3,539,148	3,663,266
製品期首たな卸高	78,590	82,503
当期製品製造原価	99,814	91,965
合計	178,404	174,468
製品他勘定振替高	3 91,318	3 80,625
製品期末たな卸高	82,503	93,842
製品売上原価	4,583	-
売上原価合計	3,543,731	3,663,266
売上総利益	5,519,581	5,882,259
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	132,081	156,390
販売促進費	230,645	254,401
広告宣伝費	54,024	68,962
貸倒引当金繰入額	178	1,160
役員報酬	149,977	155,475
給料及び手当	1,738,496	1,837,339
退職給付費用	77,121	81,369
役員賞与引当金繰入額	60,972	51,260
役員株式給付引当金繰入額	15,808	13,420
法定福利費	242,110	248,835
福利厚生費	35,750	43,502
旅費及び交通費	188,677	235,317
減価償却費	452,109	503,256
賃借料	192,343	227,874
租税公課	105,616	103,322
研究開発費	109,575	235,744
支払手数料	72,278	94,430
その他	1 599,389	1 610,221
販売費及び一般管理費合計	4,457,156	4,922,282
営業利益	1,062,425	959,976

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業外収益		
受取利息	217	244
為替差益	4,565	15,870
業務受託料	1 100,000	1 100,000
受取手数料	4,597	11,439
その他	1,750	1,211
営業外収益合計	111,130	128,765
営業外費用		
支払利息	29,836	18,191
手形売却損	899	-
シンジケートローン手数料	11,344	12,436
その他	2,318	2,167
営業外費用合計	44,398	32,795
経常利益	1,129,157	1,055,946
特別損失		
固定資産除却損	4 64,402	4 42,546
減損損失	-	186,654
特別損失合計	64,402	229,201
税引前当期純利益	1,064,755	826,745
法人税、住民税及び事業税	154,339	165,885
法人税等調整額	179,693	50,582
法人税等合計	334,033	115,302
当期純利益	730,721	711,442

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計			
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金					
					別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	3,001,929	2,587,029	2,587,029	197,500	4,913,000	734,852	5,845,352	26,280	11,408,030	
当期変動額										
剰余金の配当						158,767	158,767		158,767	
当期純利益						730,721	730,721		730,721	
自己株式の取得								52,008	52,008	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	571,953	571,953	52,008	519,945	
当期末残高	3,001,929	2,587,029	2,587,029	197,500	4,913,000	1,306,806	6,417,306	78,289	11,927,975	

	評価・換算差額等		純資産合計
	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	31,155	31,155	11,376,874
当期変動額			
剰余金の配当			158,767
当期純利益			730,721
自己株式の取得			52,008
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	49,656	49,656	49,656
当期変動額合計	49,656	49,656	569,601
当期末残高	18,500	18,500	11,946,476

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本								自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金					
					別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	3,001,929	2,587,029	2,587,029	197,500	4,913,000	1,306,806	6,417,306	78,289	11,927,975	
当期変動額										
剰余金の配当						185,228	185,228		185,228	
当期純利益						711,442	711,442		711,442	
自己株式の取得								188	188	
自己株式の処分								2,233	2,233	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	526,214	526,214	2,044	528,258	
当期末残高	3,001,929	2,587,029	2,587,029	197,500	4,913,000	1,833,020	6,943,520	76,244	12,456,234	

	評価・換算差額等		純資産合計
	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	18,500	18,500	11,946,476
当期変動額			
剰余金の配当			185,228
当期純利益			711,442
自己株式の取得			188
自己株式の処分			2,233
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	11,769	11,769	11,769
当期変動額合計	11,769	11,769	516,489
当期末残高	6,730	6,730	12,462,965

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

(2) 子会社株式

移動平均法による原価法

2 デリバティブ

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 商品

総平均法

(2) 製品

総平均法

(3) 原材料

総平均法

(4) 仕掛品

総平均法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) リース資産以外の有形固定資産

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	6～65年
車両運搬具	4～6年
工具、器具及び備品	2～15年

(2) リース資産以外の無形固定資産

定額法

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えて、一般債権については、貸倒実績率等を勘案した必要額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に債権の回収可能性を勘案した回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数（主として14年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理することとしております。

・未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

(5) 役員株式給付引当金

株式交付規程に基づく役員への当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における要給付見込額を計上しております。

7 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。但し、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を行っております。また金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約取引、通貨スワップ取引及び通貨オプション取引、金利スワップ取引

ヘッジ対象...商品仕入に係る外貨建金銭債務及び予定取引、借入金の利息

(3) ヘッジ方針

外貨建金銭債務について、為替予約等により円貨額を確定させ、為替変動リスクを回避することを目的としております。また、借入金の金利変動リスクを回避することを目的とし、金利スワップを行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から期末までの期間において、ヘッジ手段の実行額の累計とヘッジ対象の決済額の累計とを比較して有効性の判定を行っております。但し、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

(役員向け株式交付信託)

役員向け株式交付信託については、連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の記載をしているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
未収入金	15,146千円	15,840千円
買掛金	349,140千円	475,842千円
未払金	1,425千円	3,836千円

2 保証債務

(前事業年度)

下記の連結子会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

Ortho Development Corporation	4,488,000千円 (40,000千米ドル)
-------------------------------	-----------------------------

なお、上記金額は期末日の為替相場により円換算しております。

(当事業年度)

下記の連結子会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

Ortho Development Corporation	3,315,624千円 (31,200千米ドル)
-------------------------------	-----------------------------

なお、上記金額は期末日の為替相場により円換算しております。

3 コミットメントライン契約

(前事業年度)

当社は、機動的な資金調達と安定性の確保を狙いとして金融機関と短期コミットメントライン契約を締結しております。

当事業年度末における短期コミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円
借入実行残高	1,660,560千円
差引	339,440千円

(当事業年度)

当社は、機動的な資金調達と安定性の確保を狙いとして金融機関と短期コミットメントライン契約を締結しております。

当事業年度末における短期コミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	当事業年度 (平成30年3月31日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円
借入実行残高	1,466,526千円
差引	533,474千円

4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 千円	30,298千円
電子記録債権	- 千円	27,005千円

(損益計算書関係)

1 関係会社に係る注記

各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価		
仕入高	2,346,603千円	3,044,735千円
販売費及び一般管理費		
その他	41,795千円	40,251千円
営業外収益		
業務受託料	100,000千円	100,000千円

2 商品他勘定受入高の主な内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
製品より受入	20,749千円	14,672千円

3 製品他勘定振替高の主な内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品へ振替	70,316千円	65,953千円
商品仕入へ振替	20,749千円	14,672千円
材料費への振替	251千円	- 千円

4 固定資産除却損の主な内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	- 千円	812千円
工具、器具及び備品	64,402千円	41,734千円

(有価証券関係)

子会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
子会社株式	988,882	988,882

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	17,904千円	15,526千円
賞与引当金	55,444千円	50,736千円
商品評価損	255,619千円	242,679千円
事業再構築関連費用	3,780千円	- 千円
繰延ヘッジ損益	8,257千円	2,970千円
未払費用	- 千円	73,622千円
その他	77,582千円	23,579千円
小計	402,073千円	403,174千円
評価性引当額	112,000千円	107,000千円
繰延税金資産(流動)合計	290,073千円	296,174千円
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	180,959千円	200,989千円
繰越欠損金	1,194,879千円	988,104千円
減損損失	- 千円	57,153千円
その他	3,789千円	4,149千円
小計	1,379,628千円	1,250,397千円
評価性引当額	937,000千円	758,000千円
繰延税金資産(固定)合計	442,628千円	492,397千円
繰延税金資産合計	732,702千円	788,572千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の項目別内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.3%	3.9%
住民税均等割等	1.3%	1.7%
評価性引当金	0.7%	22.3%
税率差異	1.0%	2.6%
その他	1.4%	2.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.4%	14.0%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,258,183	26,388	17,294 (15,466)	1,267,277	850,047	17,982	417,230
構築物	3,376	-	-	3,376	2,846	38	530
機械及び装置	21,642	-	-	21,642	20,992	216	649
車両運搬具	3,967	1,100	-	5,067	2,859	454	2,207
工具、器具及び備品	5,858,441	542,037	303,098	6,097,380	3,976,405	488,699	2,120,975
土地	2,132,108	-	171,188 (171,188)	1,960,919	-	-	1,960,919
有形固定資産計	9,277,718	569,526	491,581 (186,654)	9,355,663	4,853,151	507,392	4,502,512
無形固定資産							
ソフトウェア	355,020	16,135	-	371,155	337,076	13,195	34,078
電話加入権	9,170	-	-	9,170	-	-	9,170
無形固定資産計	364,190	16,135	-	380,325	337,076	13,195	43,248

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品 医療工具類の取得 534,327千円

2 当期減少額の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

3 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品 医療工具類の除却 303,098千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	10,887	1,163	-	3	12,047
賞与引当金	179,664	165,697	179,664	-	165,697
役員賞与引当金	60,972	51,260	60,972	-	51,260
役員株式給付引当金	15,808	13,420	2,233	-	26,994

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、洗替に伴う戻入であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- ・会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- ・会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- ・株主の有する株式に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第45期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
平成29年6月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第45期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
平成29年6月26日関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における決議事項)の規定に基づく臨時報告書
平成29年6月27日関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

第46期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
平成29年8月14日関東財務局長に提出
第46期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)
平成29年11月14日関東財務局長に提出
第46期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)
平成30年2月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6月19日

株式会社日本エム・ディ・エム
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小 松 亮 一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石 上 卓 哉

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本エム・ディ・エムの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日本エム・ディ・エム及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社日本エム・ディ・エムの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社日本エム・ディ・エムが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月19日

株式会社日本エム・ディ・エム
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	小	松	亮	一
指定社員 業務執行社員	公認会計士	石	上	卓	哉

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本エム・ディ・エムの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日本エム・ディ・エムの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。